

千原キャンパス配置図

Location Map of the Buildings Arranged in Senbaru Campus



www.agr.u-ryukyu.ac.jp

2022 琉球大学農学部 琉球大学大学院農学研究科 概要

Faculty of Agriculture and Graduate School of Agriculture
University of the Ryukyus

亞熱帶の沖縄でしか、できないことがある。



琉球大学農学部・大学院農学研究科概要

Overview of Faculty of Agriculture and Graduate School of Agriculture, University of the Ryukyus, Published on July 1, 2022

琉球大学農学部 [https://www.agr.u-ryukyu.ac.jp](http://www.agr.u-ryukyu.ac.jp)

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL (098)895-8733(総務係) FAX (098)895-8734
E-mail : ngsoumu@acs.u-ryukyu.ac.jp

亜熱帶フィールド科学教育研究センター

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL (098)895-8740(附属施設係) FAX (098)895-8741

Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus

1 Senbaru, Nishihara-Cho, Okinawa 903-0213, Japan
Phone : +81-98-895-8733 FAX : +81-98-895-8734
E-mail : ngsoumu@acs.u-ryukyu.ac.jp

Subtropical Field Science Center

1 Senbaru, Nishihara-Cho, Okinawa 903-0213, Japan
Phone : +81-98-895-8740 FAX : +81-98-895-8741

総合科学の農学だから

できることがある!!

21世紀は
農学で行こう！

Faculty of Agriculture

農学は総合科学。

21世紀の大問題「食料問題」「環境問題」「エネルギー問題」そして「健康」。これらの全てに「農学」が関わっています。

問題解決のためには、総合科学である「農学」が必要です。
「21世紀は農学で行こう！」

急速な人口増加による食料不足と生物資源の枯渇や、これに関連する温暖化、砂漠化および森林の減少などの環境問題は、人類の生存環境も破壊しつつあります。これらの問題解決は21世紀の農学に課せられた使命であり、安全で安定的な食料生産をはじめ、環境保全、資源・エネルギーの正しい選択と利用、健康・栄養・長寿、新たな開発、公共の福祉への寄与をとおし、「持続的に発展可能な社会」の形成に貢献することが期待されています。

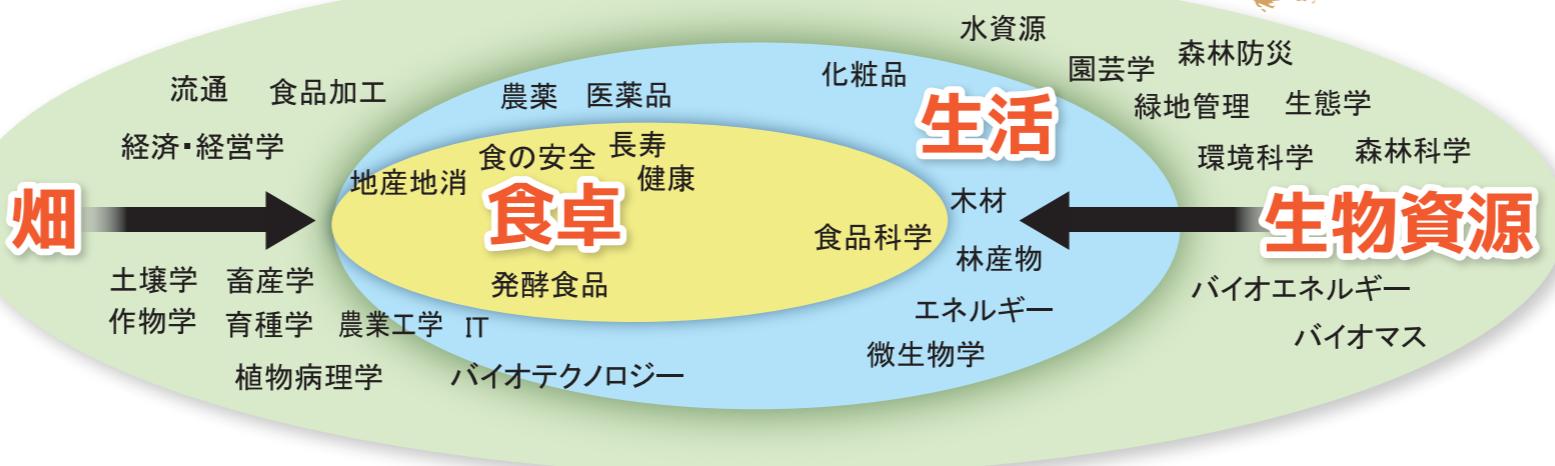
目 次

ごあいさつ・組織図	1
沿革	2
教育理念・教育目標・入学者受入方針(アドミッションポリシー)	3
教育課程	4
亜熱帯地域農学科	5
亜熱帯農林環境科学科	7
地域農業工学科	9
亜熱帯生物資源科学科	11
教職課程	13
栄養教諭	15
農学研究科(修士課程)	17
鹿児島大学大学院連合農学研究科(博士課程)	18
亜熱帯フィールド科学教育センター	19
琉球大学博物館(風樹館)	20
国際交流活動	21
農学部および農学研究科教員の主な研究内容紹介	23
職員	25
職員数/土地・建物/学生の定員および現員	26
令和3年度入学志願者および入学状況/卒業生の動向	27
卒業生・修了生の進路	28

畑から食卓まで



農学は生物を理解し、それを育て、食する所まで運び、育てた人々・食べた人々を幸福・健康にする学問です。



農学は自然を理解し、自然を維持しながら、自然が生み出す生物資源を人々の生活の向上に役立てる学問です。

環境と向き合う。

琉球大学
農学部へ行こう！

亜熱帯の沖縄でしか、
できないことがある。

琉球大学農学部は日本で唯一、亜熱帯地域にあります。その場にいなければ感じられない事、その場にいることで感じられるモノが多く、本学では地理的条件を活かした、他では体験できない教育と研究が行われています。亜熱帯の沖縄でしか、できないことがあります。

本学部は、わが国唯一の亜熱帯地域という地理的条件を活かして、これらの課題解決を目指す特色ある学部づくりに取り組んでいます。時代および地域のニーズに対応した4学科「亜熱帯地域農学科」「亜熱帯農林環境科学科」「地域農業工学科」「亜熱帯生物資源科学科」が設置されています。各学科では、沖縄の地理的・文化的な特性を活かし、バイオサイエンスやIT等の先端技術を取り入れ、持続的食料生産、環境保全、資源・エネルギー利用および健康・長寿・食育に関する教育と研究を行います。



ごあいさつ

農学部長
和田 浩二



農学部は、わが国で唯一亜熱帯地域に位置しており、沖縄の亜熱帯島嶼性という特性を活かし、持続的食料生産、地域農業、環境保全、生物資源・エネルギー利用、栄養・健康・長寿および発酵・生命に関する教育と研究を行っています。

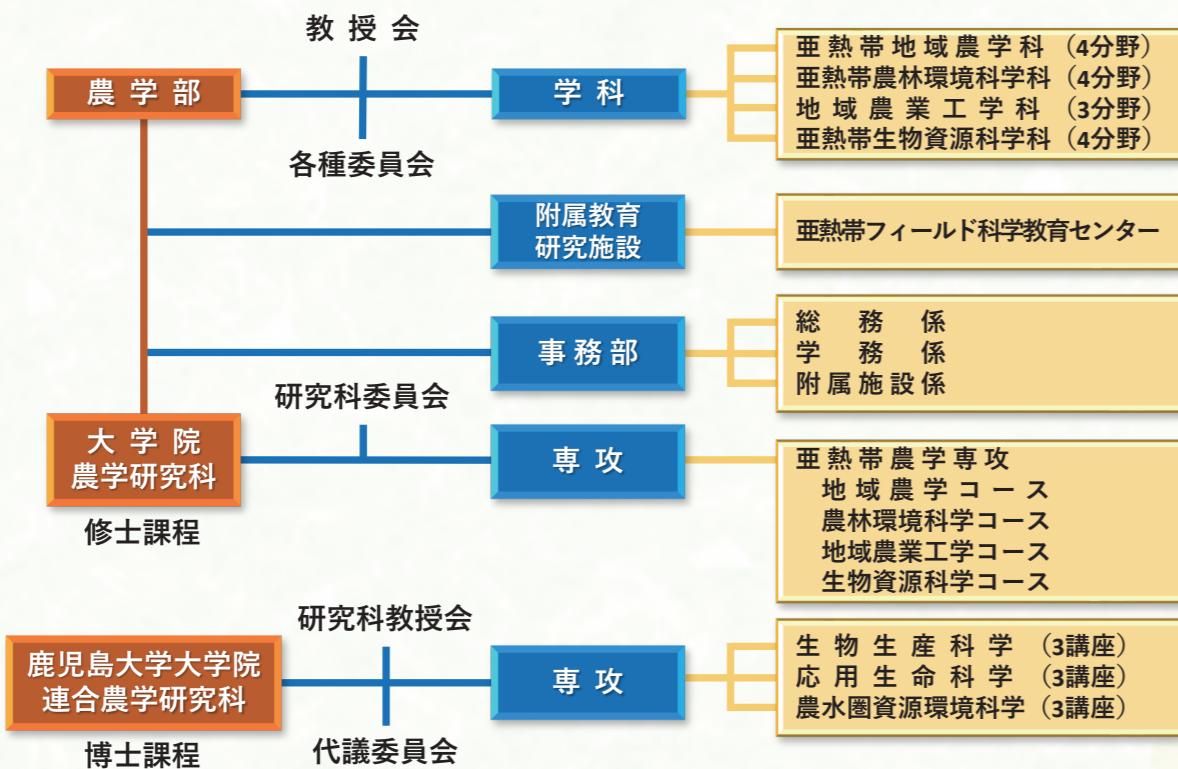
本学部は4学科、亜熱帯地域農学科、亜熱帯農林環境科学科、地域農業工学科および亜熱帯生物資源科学科から構成されています。亜熱帯地域農学科は、亜熱帯地域社会における持続的農業の構築を目指し、地域資源の合理的な利用・循環に関連した教育と研究を行っています。亜熱帯農林環境科学科は、亜熱帯農林業を取り巻く生物の諸特性解明および人間と自然環境との調和を目指す教育と研究を行っています。地域農業工学科は、亜熱帯の田園空間の創造およびIT農業の技術開発によって、環境創出を目指す教育と研究を行っています。亜熱帯生物資源科学科は、亜熱帯地域の生物資源、食資源の特性解明と機能性食品等に利用可能な成分の開発に関する教育と研究、ならびに栄養士の人材育成を行っています。

授業科目では、自然科学と社会科学の基礎から応用までを包含する総合科学としての農学の特性を踏まえ、1年次に各学科の教員が担当する共通科目を提供し、2年次以降では専門性を深める講義、演習、実験、セミナーをバランスよく組み合わせたカリキュラムを編成しています。また、学生による授業評価の結果を精査し、各教員が授業改善を行い、授業に参加する学生の学習意欲の向上に努めるとともに、キャリア教育にも取り組んでいます。

また、大学院農学研究科では、学部の4学科に対応した4つのコースを擁する亜熱帯農学専攻(修士課程)を設置し、21世紀のグローバル化の時代に求められる、環境と調和した生物資源の安定生産と持続的利用を通じた豊かな社会の構築を目指す新たな農学に対応できる能力を培っています。さらに、専門の研究者を目指す学生には、琉球大学、鹿児島大学および佐賀大学で構成される博士課程(鹿児島大学大学院連合農学研究科)も設置されています。

本学部は、亜熱帯島嶼地域の特性を最大限に活かし、グローバルな視点から教育と研究の向上を図り、地域および国際社会の発展に貢献することを目指しています。

組織図



沿革

昭和25年5月22日	琉球大学創設により農学部設置(農学、畜産学専攻)
昭和26年9月1日	林学部設置
昭和28年4月1日	実用工学科設置(短期)
昭和29年4月1日	農学部、林学部、家政学部を統合して農家政学部と改称(農学科、畜産学科、林学科、家政学科、実用工学科(短期))
昭和29年5月5日	米国民政府より与那官有林の使用権認可、演習林開設
昭和30年4月1日	機械工学科、総合農学科設置、実用工学科廃止
昭和30年10月1日	農業改良普及事業開設
昭和32年4月1日	土木工学科、電気工学科設置
昭和33年10月1日	農家政学部を農家政工学部と改称
昭和33年10月1日	附属農業試験場、附属林業試験場設置
昭和38年4月1日	総合農学科廃止、農芸化学科設置
昭和39年11月4日	農業工学科設置
昭和41年7月1日	琉球政府立大学となる
昭和42年4月1日	機械工学科、土木工学科、電気工学科を理工学部へ組織替
昭和42年4月1日	農家政工学部を農学部と改称
昭和42年4月1日	附属農業試験場、附属林業試験場をそれぞれ附属農場、附属演習林に改称
昭和46年12月3日	附属熱帯農学研究施設設置
昭和47年4月1日	家政学科を教育学部へ組織替
昭和47年4月1日	農業改良普及事業廃止
昭和47年5月15日	沖縄の本土復帰により、国立大学となる
昭和52年5月2日	大学院農学研究科(修士課程)設置(農学、農芸化学、畜産の3専攻)
昭和52年5月11日	附属農場、千原団地へ移転
昭和53年4月1日	大学院農学研究科に林学専攻設置
昭和54年3月15日	農学部、千原団地へ移転
昭和57年2月16日	附属農場畜産施設、千原団地へ移転
昭和58年4月1日	大学院農学研究科に農業工学専攻設置
昭和60年4月1日	農学部附属農場・演習林事務部を学部事務部に統合
昭和60年4月1日	附属熱帯農学研究施設に環境・資源研究部門設置
平成3年4月1日	5学科(農学科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科、林学科)を改組し、3学科(生物生産学科、生産環境学科、生物資源科学科)を設置
平成4年4月1日	鹿児島大学大学院連合農学研究科(博士課程)の構成大学となる
平成6年6月1日	附属熱帯農学研究施設と熱帯海洋科学センターを統合し、熱帯生物圏研究センターへ転換
平成7年4月1日	大学院農学研究科5専攻を3専攻(生物生産学専攻、生産環境学専攻、生物資源科学専攻)に名称変更
平成10年11月16日	事務一元化・集中化により、5係(庶務、会計、学務、農場、演習林)が2係(総務、附属施設)となる
平成14年4月1日	附属農場と附属演習林を統合し、亜熱帯フィールド科学教育研究センターを設置
平成16年4月1日	国立大学法人となる
平成21年4月1日	3学科(生物生産学科、生産環境学科、生物資源科学科)を改組し、4学科(亜熱帯地域農学科、亜熱帯農林環境科学科、地域農業工学科、亜熱帯生物資源科学科)を設置
平成23年4月1日	大学院農学研究科3専攻を改組し、1専攻(亜熱帯農学専攻)を設置
平成29年4月1日	亜熱帯生物資源科学科に健康栄養科学コースを設置

教育理念・教育目標 入学者受入方針

(アドミッション・ポリシー)

教育理念

本学部は、沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性を活かし、生物の生存環境と人間の共生を目指して、持続的食料生産、地域農業、環境保全、生物資源・エネルギー利用、栄養・健康・長寿及び発酵・生命に関する専門教育と研究を深化させ、その成果の蓄積・活用と人材育成によって、地域社会並びに国際社会の発展に貢献することを目的とする。

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

沖縄の亜熱帯島嶼性という環境で学ぶことを望み、農学分野の技術開発及び研究等を行う専門家として国内外で活躍することを志し、その学習のために必要な基礎学力を有し、主体的に学習に取り組む態度を身につけ、広い視野から社会の発展に貢献したいという意欲に溢れる次のような人を求めています。

① 亜熱帯地域農学科:

- (1) 国際的な視点で地域農林畜産業の振興に貢献したい人
- (2) 地域生物資源の循環システムに基づく持続的農業生産に取り組みたい人
- (3) 農業と地域社会との共生の仕組みを考えたい人

② 亜熱帯農林環境科学科:

- (1) 生物資源・環境の機能や特性の解明に興味をもつ人
- (2) 生物生産と自然環境との調和を目指す人
- (3) 生物多様性の理解を通じて環境保全に貢献したい人

③ 地域農業工学科:

- (1) 農業生産から流通・加工に係わる食料システムの構築に興味がある人
- (2) 豊かな農村空間の創出、確かな農村基盤の整備、防災及び農村環境の保全に関心がある人
- (3) 農と自然との調和に関する工学的探究に興味がある人

④ 亜熱帯生物資源科学科:

- (1) 生物資源の利用・開発及びバイオテクノロジーに関心のある人
- (2) 健康の保持増進に有効な機能性食品の開発に興味を持つ人
- (3) 発酵科学を通じて食品・医薬産業に貢献したい人
- (4) 栄養学・食育を通じて地域社会の健康の保持増進に貢献したい人(健康栄養科学コースのみ)

教育課程

農学部は、わが国で唯一亜熱帯地域に立地しているという地理的条件を活かして、食料問題や環境問題など地球規模の課題および地域農業の発展にかかる課題の解決を目指す特色ある学部づくりに取り組んでいます。本学部は「亜熱帯地域農学科」「亜熱帯農林環境科学科」「地域農業工学科」「亜熱帯生物資源科学科」の4学科で構成されています。

教育プログラムとして、各学科に複数の教育コースが設定され、社会の要請に応えられる人材を養成しています。教育カリキュラムの特徴は次の4点となっています。

- ・「地域農業の振興」「農林環境の保全と生物機能」「地域農業システムの構築」「生物資源の利活用」の4つのテーマに応じた組織を構成し、アドミッション・ポリシーおよび教育目標を明確化しています。
- ・コースカリキュラムによる高度な専門性と、学科をまたぐ柔軟なカリキュラム構成による総合的教養を備えた一専多能型の高度な専門職業人の育成を行います。
- ・学科横断型カリキュラム構成により、多くの資格が取得できる履修モデルを設置しています。
- ・一部、JABEE認定コースを設置し、専門的技術者を養成します。

各学科には、琉球大学の共通教育科目(30-34単位)、専門基礎教育科目(8-12単位)を履修後、学科の教育目標に沿って提供される学科基礎科目を履修し、教育プログラムとして14の教育コースを設定し、社会の要請に応えられる人材を養成します。各学科に設定された教育コースを2年次後期(または3年次前期)から選択できます。なお、健康栄養科学コースは栄養士養成のため、1年次からのコース配置となります。

学生による授業評価の結果を活用し、各教員が授業改善に取り組み、授業に参加する学生の学習意欲の向上に努めています。また、キャリア教育の充実を図ると共に、国立大学法人の農学部としてはじめて健康食品管理士の指定教育機関および栄養士養成施設に認定されています。

卒業要件単位表

授業科目の区分	学科	亜熱帯地域農学科	亜熱帯農林環境科学科	地域農業工学科	亜熱帯生物資源科学科	健康栄養科学コース	概要	
							1年次	2年次
教養領域	人文系科目 社会系科目 健康運動系科目 自然系科目	4 4 4 4				4 4 2	20	16
共通教育	総合科目 琉球文化・地域創生科目 キャリア関係科目							
総合領域	総合科目 琉球文化・地域創生科目 キャリア関係科目	2				2		
基幹領域	情報関係科目 外国語科目	2 12				2 14 12	14	14
専門基礎教育	先修科目 転換科目	生物系 化学系 数学系 物理系	2系から5以上 計10以上	2系から5以上 計10以上	3系から2以上 上、かつ、2系から5以上 上で12	生物系、化学系、物理系 から2以上、2系から5以上 上で12	生物系、化学系、物理系 から2以上、2系から5以上 上で12	
	小計	44	44	46	46	38	4	4
専門教育	必修科目 専門科目 選択科目	学部共通科目 学科共通科目 目コース指定	24 16	24 16	28 17 26	21 14 14	18 14 52	
	小計	82	82	80	80	88		
	合計					126		

選択科目には、自由科目を6単位まで含むことができる。

教育課程の概要

学年	概要	亞熱帯地域農学科	亞熱帯農林環境科学科	地域農業工学科	亞熱帯生物資源科学科
学部共通科目 (亜熱帯農学の理念を修得)					
共通教育科目					
専門基礎教育科目					
1年次	教養・基礎 幅広い教養を身につける共通教育、専門科目の基礎となる専門基礎科目を修得	農林經營経済学 植物開発学 循環農業学 動物基礎学 森林資源学 動植物人間関係学 食農資源経済学 フィールド実習	農業生物学 生態学・環境学 森林環境学 作物生理学 保全生物学 流域・森林保全学	農業工学 工学の力学 応用数学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	有機化学 物理化学生物分子生物学 微生物機能学
2年次	学科基礎 学部基礎科目を身に受け、学科の理念を修得	農業生物学 生態学・環境学 森林環境学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	農業生物学 生態学・環境学 森林環境学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	農業工学 工学の力学 応用数学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	有機化学 物理化学生物分子生物学 微生物機能学
3年次	教育コース 興味・必要資格に応じた専門履修コースを選択	農業生物学 生態学・環境学 森林環境学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	農業生物学 生態学・環境学 森林環境学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	農業生物学 生態学・環境学 森林環境学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	有機化学 物理化学生物分子生物学 微生物機能学
4年次	専門分野配属 基礎から応用まで修得した専門分野を自ら総括	農業生物学 生態学・環境学 森林環境学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	農業生物学 生態学・環境学 森林環境学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	農業生物学 生態学・環境学 森林環境学 作物生理学 保全生物学 農業生産システム論	有機化学 物理化学生物分子生物学 微生物機能学
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究

大学院農学研究科修士課程

鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程

亞熱帶地域農学科

亞熱帶地域社会における自然と農との調和に配慮した持続的農業の構築を目標とし、農林畜産物の開発・生産、流通・消費および地域資源の合理的な利用・循環に関連したフィールド活用型の総合的農学教育・研究を行います。

教育・研究目標

1. 地域農業振興モデルの構築と亞熱帯農業への多面的貢献
2. 農林畜産物の生産および流通経済・経営メカニズムの解明
3. 持続的食料生産に関わる諸技術の創出
4. 亞熱帯性植物資源の開発と生産利用
5. 農林業の多面的機能や教育上の効果についての開発・評価

Key words

持続的食料生産
地域農業
園芸・緑地管理



亞熱帶林の資源量調査



パミスサンドを用いたパイン栽培



パミスサンドを用いたトマト栽培



農村調査実習



放牧地の管理実習

農作物の育種・畜産物生産、農林経済・経営、園芸・緑地管理の専門家を養成することによって、地域に根ざした循環型農業に貢献！



教育コース

主な専門科目

農林経済学コース

持続的食料自給システム並びに都市と農山村との循環型社会の構築に関する専門的知識の修得

- 農業政策学
- 農産物流通学
- 森林政策学
- アグリビジネス論
- 比較林政学
- 森林経営計画学

植物開発学コース

亞熱帯域に適応する農作物と未利用植物資源の開発、ならびに持続的生産技術に関するフィールドを活用した理論と実践的展開に関する専門的知識の修得

- 基礎遺伝学
- 热帯果樹園芸学
- 蔬菜園芸学
- 觀賞植物園芸学
- 植物育種学
- 園芸学実験

循環畜产学コース

家畜生産を通じた地域資源循環型農業に関する専門的知識の修得

- 循環畜产学
- 热帯草地学
- 家畜飼料学
- 家畜環境管理学
- 家畜行動管理学
- 家畜環境衛生学実験

農林共生学コース

亞熱帯域の動植物生産と人との共生関係に関する専門的知識の修得

- 作物栽培環境学
- 園芸福祉学概論
- 畜産共生技術論
- 畜産周辺関係学
- 森林ツーリズム論
- 森林情報計測学

想定される就職先

- 農業関連分野の技術者
- グリーンコーディネータ
- 農林業関連分野の
- 政策・行政・企画・地域計画担当者
- 経営指導者、流通指導者
- 農業関係団体職員、造園業
- 森林インストラクター
- アグリビジネス従事者
- 農業自営者
- 地方・国家公務員

資格・免許

- 教職免許：**高等学校教諭一種免許状[農業]
- 受験資格：**家畜人工授精師(一部、要別途講習)
- 樹木医補**
- 任用資格：**飼料製造管理者

亜熱帯農林環境科学科

亜熱帯農林業を取り巻く生物の諸特性解明と制御、家畜と作物の増殖技術と調節技術の開発、ならびに流域生態系の環境保全・管理と制御を通じて人間と自然環境との調和を目指す教育・研究を行います。

教育・研究目標

- 植物の機能特性や病虫害発生の特性解明による安定多収・高品質生産システムの開発
- 土壤諸機能の解析と資源循環の制御
- 動物の生理機能解明や遺伝的特性の解析による生産制御
- 野生生物の生態的特性解明による保全と管理
- 森林生態系の構造と機能解明による環境保全・修復と流域管理

Key words

生態系、農林環境保全
森林、生物多様性
昆虫、動植物機能
光合成、植物工場



森林生態・気象観測タワー



植物病理学実験



植栽する苗木の選定(造林学実習)

自然生態系・農林環境の保全、動植物の機能解析・開発の専門家を養成することによって、動物・植物・微生物の探求・利用・保護に貢献！



教育・研究の場にもなっている沖縄島北部の亜熱帯林(琉球大学与那フィールド)

教育コース

植物機能学コース

植物の生理・生化学的機能および植物と病害虫、微生物との関係を解明し、高品質生産の確立に関する専門的知識を修得します。

主な専門科目

- 熱帯植物病理学
- 植物ウイルス病学
- 植物線虫学
- 熱帯作物学
- 熱帯エネルギー作物学
- 土壤微生物学

動物機能学コース

家畜を含む哺乳類の生命現象を細胞から個体まで様々なレベルで生理・遺伝の視点から解明し、亜熱帯の生態環境に適合した持続的で生産性の高い育種・繁殖・飼養技術の構築に関する専門的知識を修得します。

主な専門科目

- 家畜生理学
- 家畜繁殖学
- 家畜育種学
- 動物生体機構学
- 動物解剖生理学実習

森林環境学コース

森林・マングローブにおける樹木や菌類などの生物、水の動き、防災機能等を学び、生態系の保全・修復と木材などの資源利用が調和した流域管理に関する専門的知識を修得します。

主な専門科目

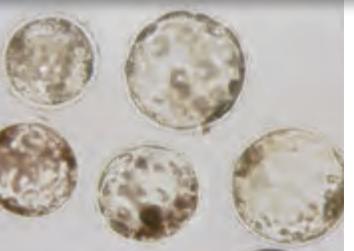
- 森林植物学
- 森林生態学
- 森林保護学
- 樹木生理・遺伝育種学
- 森林水文学
- リモートセンシング実習

生態環境科学コース

亜熱帯域における自然環境、そこに生息する野生生物の生態的特性の解明と土壤を中心とした物質循環系の解明を通して、生物と環境の相互関係に関する専門的地域を修得します。

主な専門科目

- 進化生態学
- 基礎昆虫学
- 環境土壤学
- 食料生産と環境
- 昆虫学実験



沖縄在来豚アグー凍結精子を用いた体外受精で作出された胚盤胞期胚



リュウキュウアイ(琉球藍)の栽培実験



ソバの花と受粉するアリ

想定される就職先

農業・畜産関連分野の技術者
林業関連分野の技術者
自然環境系コンサルタント
ネイチャーガイド
自然保護官(レンジャー)
森林インストラクター
観光業
環境関連NPO職員
地域計画プランナー
ランドスケープ設計技術者
不妊治療関係分野の技術者
食品製造技術者
地方・国家公務員

資格・免許

教職免許 :
高等学校教諭一種免許状 [農業]

資 格 :
樹木医補

任用資格 :
飼料製造管理者
食鳥処理衛生管理者

受験資格 :
家畜人工授精師(一部要別途講習)

地域農業工学科

亞熱帯の島嶼環境と調和した自然循環型農業や田園空間の創造、ならびにスマート農業の技術開発やバイオマス地域循環システムの構築によって、「緑・土・水」と人間との環境創出を目指す教育・研究を行います。

教育・研究目標

1. 食料生産から流通・加工に係わる一連の工程のシステム化
2. 持続可能な再生可能エネルギーの開発や利用
3. 農村空間の創出、農村基盤の整備、自然条件下での防災および農村環境の保全
4. 農と自然との調和に関する工学的探求

Key words

スマート農業

エネルギー利用の最適化と環境負荷低減

自然と調和した農村空間

農村地域の環境保全・防災



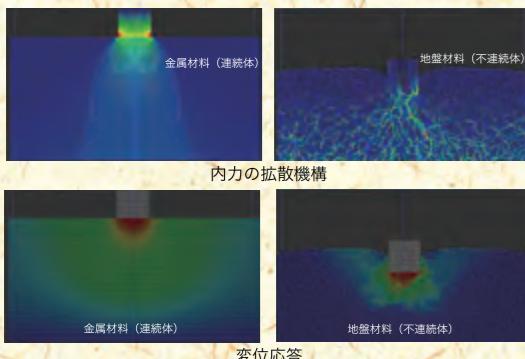
土砂災害の調査



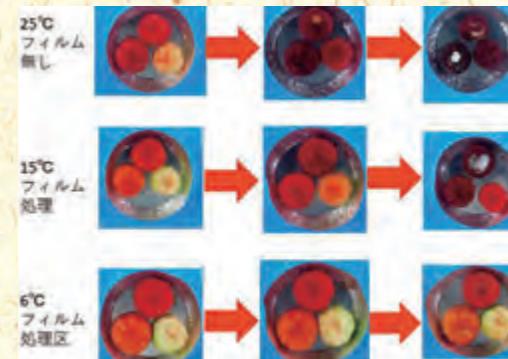
海外での畠地調査



ドローンによるサトウキビ生育調査



連続体と不連続体材料の力学・変位特性



アセロラの貯蔵試験

地域特有な気候風土に対応した地域環境・農業システム工学の専門家の養成によって、地域環境保全・防災とスマート農業・エネルギー利用の最適化に貢献！



実験(サトウキビ品質評価法の開発)



実験(水路の流れ計測)



現地授業とワークショップ

教育コース

● 主な専門科目

バイオシステム工学コース

数理科学、情報技術などの知識・手法を駆使し、食料生産から流通・加工に係わる一連の工程のシステム化および持続可能な再生可能エネルギーの開発や利用に関する専門的知識を理解する能力の修得

- ポストハーベストテクノロジー
- 農業エネルギー工学
- 農業情報工学
- 生物材料工学
- 生物資源プロセス工学
- ポストハーベスト工学実験
- 農業機械・農業情報工学実験

地域環境工学コース

JABEE認定プログラム(分野:農業工学)
農村空間の創出、農村基盤の整備、亞熱帯特有の自然条件の下での防災および農村環境の保全に関する技術ならびに農と自然との調和に関する工学的探究に関する専門的知識を理解する能力の修得

- 農村農地の整備
- 水資源工学
- 水理学
- 土地環境保全学
- 土の物理学
- 応用力学
- 地域環境実験 I, II

農学を広く理解し、実際に体験する
1年前期(4月)～
・共通教育科目
・専門基礎教育科目
・専門教育科目(農学部共通)
2年前期(4月)～
・専門教育科目(学科共通)

教育コースの選択
2年後期(10月)～
・専門教育科目
・専門基礎教育科目
・専門教育科目(農学部共通)
・キャリア実習
4年前期(4月)～
・卒業研究に取り組み、総合的な能力を習得

農業工学に関する社会的要求を総合的に問題解決できる実践的人材を目指して
3年前期(4月)～
・専門教育科目(各教育コース)
・キャリア実習
4年前期(4月)～
・卒業研究に取り組み、総合的な能力を習得

想定される就職先

- 農業土木分野の技術者
- 自然環境系コンサルタント技術者
- ランドスケープ設計技術者
- 地域計画プランナー
- 環境関連NPO職員
- 農業機械技術者
- 情報技術者
- 食品製造・流通技術者
- バイオマスエネルギー関連産業従事者
- 地方・国家公務員

資格・免許

教職免許 :
高等学校教諭一種免許状 [農業]

資格 :
技術士の第一次試験免除
(日本技術者教育認定基準[JABEE]認定プログラム修了者)

測量士補

亜熱帯生物資源科学科

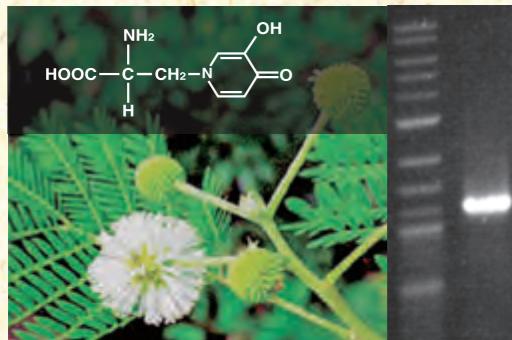
亜熱帯地域に生息する動植物および微生物などの生物資源および伝統食品・発酵食品・その他食資源の特性や機能性を、遺伝子工学・生化学・物理化学・生理学・栄養学および調理学的な解析により明らかにします。それらの知見をもとにバイオテクノロジーによる新規有用物質の生産、機能性食品、発酵食品、医農薬品等に利用可能な成分の開発を行います。さらに農学の幅広い知識と地域特性を理解した栄養士の養成を通じて豊かで健康的な生活・長寿社会の構築に貢献していきます。

教育・研究目標

1. 微生物と動植物起源の生理活性物質や機能性生体成分の構造解析と高度利用
2. 地域生物資源からの機能性食品や健康食品の開発
3. 生物工学的技術による新規な生物機能の開発と高度利用
4. 伝統的発酵食品の高品質化と新しい発酵食品の開発
5. 郷土の食文化を栄養学的に解明し、健康的な長寿社会の構築に貢献

Key words

健康食品、医農薬
微生物、発酵
バイオテクノロジー
食育、健康長寿



ギンネム由来植物成長抑制因子合成酵素の遺伝子解析



校外実習における 食育指導の様子



オキナワモズクの新しい利用方法の開発



海洋生物由来の生物活性物質の探索

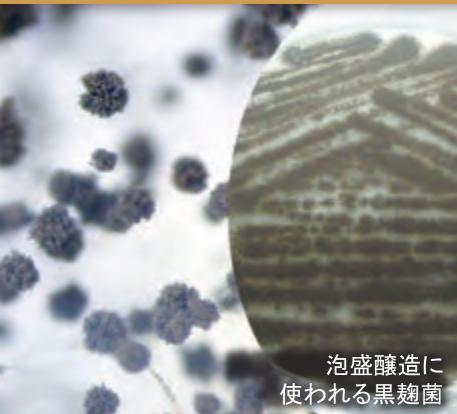


伝統食品「豆腐よう」に使用される紅麹菌由来生理活性物質の探索と作用機序の解明

亜熱帯の沖縄は生物資源と食資源の宝箱
私たちと一緒に宝探しの旅に出よう!
医薬品・食品・発酵の技術開発が原石を宝石に変える!
バイオ・ヘルスサイエンスで切り拓く健康長寿社会の実現!



薬のタネをつくる
土壤微生物の探索



泡盛醸造に
使われる黒麹菌



パインアップル品種による
香気成分の比較分析



調理の基礎が学べる調理学実習

教育コース

生物機能開発学コース

亜熱帯の生物資源の機能特性を分子から生体レベルで追求し、人類の福祉に有効な機能性素材の開発や利用に関する専門的知識の修得

主な専門科目

- 生理活性物質学
- 生物資源利用学
- 糖鎖生命科学
- 遺伝子工学
- 天然物化学
- 生物工学

食品機能科学コース

食品の機能性を健康維持、増進の観点から追求し、新たな食品素材を開発すると共に、健康生活の向上に関する専門的知識の修得

- 食品利用加工学
- 食品機能化学
- 食品衛生学
- 栄養生理学
- 免疫・臨床化学

発酵・生命科学コース

地域特性を生かした発酵食品の開発、ならびに亜熱帯生物資源の生命現象の解析とその応用に関する専門的知識の修得

- 発酵化学
- 生命科学
- 微生物機能学
- 泡盛醸造学
- 応用酵素学
- タンパク質工学

健康栄養科学コース

人間栄養学の観点から食を科学的かつ実践的に捉え、地域の特性を考慮した健康・長寿社会の実現に関する専門的知識の修得

- 調理学
- ライフステージ栄養学
- 臨床栄養学
- 栄養指導論
- 給食管理
- 公衆栄養学

想定される就職先

発酵・醸造分野の技術者
食品製造技術者
バイオテクノロジー技術者
農芸化学分野の技術者
医薬関連産業・化粧品関連産業従事者
地方・国家公務員
病院・福祉施設・学校給食施設・保育園
行政(市町村役場等)

資格・免許

健康栄養科学コースを除く3コースの学生を対象

教職免許: 高等学校教諭一種免許状 [農業]

任用資格: 食品衛生管理者・食品衛生監視員・環境衛生監視員

受験資格: 上級バイオ技術者・健康食品管理士・危険物取扱者(甲種)

資格: 毒物劇物取扱責任者

健康栄養科学コースの学生を対象

免許: 栄養士

教職免許: 栄養教諭二種免許状

受験資格: 健康食品管理士・管理栄養士*

* 栄養士免許を取得後、実務経験(1年以上)を必要とする受験資格

琉球大学で農業高校の先生を 目指そう!

高等学校教諭 一種免許状(農業)



取得可能学科 ▶ 農学部全4学科

農業高校で教員として働く魅力

専門性の高い技術を身につけた人材を育成し地域貢献

共に汗を流し
「農業の魅力」を伝える

農業に必要な
「知識や技術」を教える

プロジェクト学習で
「主体性」を育てる

実習が多く
即戦力となる
人材育成



農業の教材は、作物や畜産といった生き物です。生徒達と一緒に作物を栽培・飼育し、その生産物を販売する農業祭も毎年開催されます。

農業に関する学習を学校農場で実践的・体験的な学習活動を通して知識や技術を指導します。また、日頃の授業に加え、地域活動、各種競技会、資格取得への指導も行います。

生徒が課題意識をもって主体的に計画的に農業学習に取り組むよう『プロジェクト学習*』を実践。
*農業高校生が自ら研究活動を通して課題解決能力を養います。

農業を通じて“地域を支える人材を育成する”ことができます。

琉球大学 農学部の教職課程

沖縄県で唯一

「高等学校教諭 一種免許状(農業)」を取得できます。

農業高校と連携し、
「人間性」「社会性」
「専門性」を
兼ね備えた教員を育てます。
亜熱帯の気候の下で
学ぶことができるのも
ここだけです。



県内農業高校にて施設見学

農業高校の先生が担当する1週間の時間割

〔例〕園芸系学科(野菜コース)の先生
(持ち時間:週18時間)

	1	2	3	4	5	6
月	農業と環境(1年) 〈講義・実習〉		野菜(2年) 〈講義・実習〉			
火			総合学習(1年) 〈実習〉		選択 野菜(2年) 〈講義・実習〉	
水		植物バイオ(1年) 〈講義・実習〉				
木					選択 野菜(2年) 〈講義・実習〉	
金	農業と環境(1年) 〈講義・実習〉		農業機械(1年) 〈講義・実習〉		総合学習(1年) 〈実習〉	

*ほとんどの科目が少人数制の2時間連続の授業になります。

*実習の場合は、実習助手の先生が付き、複数で指導を行います。

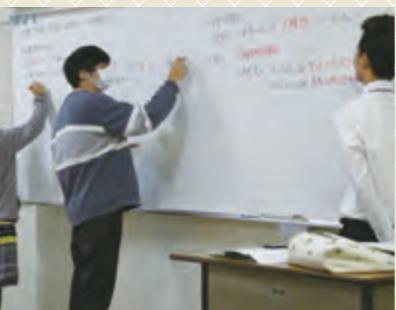


食品や加工を学ぶための実習を行っている様子



産業動物(牛など)の世話や体について学んでいる様子

教職は、人を育てるという
責任の重い仕事です。
そのため、本課程は厳しい
プログラムになっていますが、
学生支援を全面的に行います。



模擬授業でお互いの授業を確認



教育実習での様子

座学(理論)
(1~3年生)

高い専門性と
対応力を身につける

現場実習(教育実習)
(4年生)

農学部で栄養教諭の免許をとろう!

取得可能学科・コース▶亞熱帯生物資源学科 健康栄養科学コース

健康栄養科学コースは栄養士・栄養教諭の免許が取れるコースです。

農学部にある栄養士養成だからこそ、栄養士に必要な専門知識や実践技術が身に付くだけでなく、農作物の栽培・収穫から食卓に提供するまでの様々な分野を学ぶことができます。

健康栄養科学コースにおける栄養教諭育成Q&A

Q1. 栄養教諭って、どんなお仕事ですか?

A. 学校での食育の全体計画を立てて、給食時間や授業で子どもたちと一緒に栄養の勉強をしたり、個別の栄養相談などを行います。また、毎日食べる給食を安全でおいしく、そして子どもたちが成長できるように考えられた「生きた教材となる献立」を作る食の専門家です。

Q2. 農学部で栄養教諭を育成するメリットは何ですか?

A. 現代の健康問題は偏った栄養摂取だけではなく、環境や経済など多様な課題があります。健康栄養科学コースでは、基礎フィールド実習や食・農・環境概論などの科目を通して「畑から食卓まで」の総合科学(農学)が学べるメリットがあることから、総合的な課題解決の視野や専門性をもった栄養士・栄養教諭を育成します。

栄養教諭二種免許状取得に必要な単位

本コースの
栄養教諭免許状取得に
関する必要単位

= 卒業要件を含めた126単位以上
(※栄養士免許取得等に必要な単位)

+ 栄養教育実習等を
含めた29単位以上
(教職科目の単位)

※栄養教諭は栄養士免許取得が必須となります。

栄養教諭を目指す学生へインタビュー

★栄養教諭を目指そうと思ったきっかけは何ですか?

栄養教諭は、子どもたちと一緒に栄養について一緒に学んでいくことができる仕事です。栄養のこと以外にも、郷土料理や地場産物などを子どもたちに受け継ぐ者としてとても大切な役割を担っています。教職を取っていない人に比べて授業が増えるため大変ですが、他学部と関わる機会も増えるので人脈も広げられ、何より普段の授業では学べないことを教職では学べるのでやりがいを感じます!



現場の先生へインタビュー

★お仕事の魅力を教えてください。

「給食美味しかったです!」「苦手な食べ物だったけど、給食で食べられるようになりました!」などの言葉がとても嬉しいです。日々の1食が学校給食であると思うと、児童生徒の心身の健康づくりを担う職務として身が引き締まるとともに、魅力を感じています。



実際の授業の様子

★この仕事を通して大切にしていることはありますか?

学校給食は栄養バランスはもちろん、衛生管理を徹底し安心・安全であること、児童生徒の「食の履歴」が増えるようにすることを大切にしています。食べることって大事だよ、楽しいよ、という気持ちをのせて、調理員さんと一緒に美味しい給食づくりに努めています。



衛生管理のため、
温度確認をしっかりと行います。

- ある1日のお仕事紹介
- 8:00～ 着替え、全員の体調チェック、検査準備
作業前の水質検査、当日使用食材の検査、ミーティング、事務作業など
 - 10:00～ 調理状況の確認、衛生チェック、味見など
 - 11:30～ 検食(子どもたちが食べる前に)
 - 12:00～ 学校へ(クラスの様子を確認)
給食時間における食育指導
 - 13:00～ 残量の確認
事務作業(献立作成、伝票整理、教材作成など)
食育の授業
 - 15:00～ 調理師とのミーティング(次の日の工程、予定の確認など)

栄養教諭免許状を取得するまでの専門授業の流れ

1年次は農学と栄養の基礎を学ぶよ

基礎フィールド実習



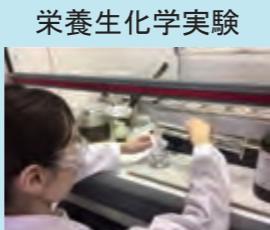
2年次から専門科目の授業が増えていくよ



調理学実習



3年次からは授業も
どんどん実践的に♪



栄養生化学実験



給食

管理実習

4年次はいよいよ
教育実習へ! 教育
実習前には学生
同士で模擬授業を
たくさん行い、教育
実習に備えます♪

栄養教育実習



模擬授業の様子



栄養教諭
二種免許状
取得

1年次前期 ▶▶

1年次後期 ▶▶

2年次前期 ▶▶

2年次後期 ▶▶

3年次

前期 ▶▶

3年次後期 ▶▶

4年次 ▶▶

卒業

農学研究科(修士課程)

農学研究科は、21世紀というグローバル化の時代を迎えて、変容する社会に対応でき、かつ、広く社会に貢献する人材を養成します。4つの専門教育コースから成る亜熱帯農学専攻では、学部教育の幅広い基礎学力を基盤とし、亜熱帯農学の多岐にわたる分野を網羅した体系的な教育プログラムが編成されています。具体的には、環境に調和した生物資源の安定的生産や持続的利用に独創的に取り組むとともに、農学に関する総合的な知識と沖縄県を含む亜熱帯地域の農業に関する課題に対応できる能力を培っています。

カリキュラムは柔軟な思考力と深い洞察力を備えるため、広範な知識・技能と応用展開力の修得と農学の専門的な知識の修得をもたらす体系的なコースワークに基づき、幅広く、かつ先端的な農学の知識を修得するための基礎教育科目、4つの専門教育コースが提供する亜熱帯地域の課題解決へ向けた新たな農学教育を行う専門科目および展開応用科目から構成されています。アジア・太平洋地域を拠点とする熱帯・亜熱帯の農林業の発展に寄与できる高度な専門知識・技術の修得、食・農・環境・資源の課題に関する教育・研究を専門教育コースに付加して行う実体験型プログラムの他、研究能力および高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培う、幅広く深い学習ができる教育プログラムを提供しています。

専 攻	入学定員	教 育 研 究 分 野	学 位
亜 熱 帯 農 学	35人	地域農学コース 農林経済科学 動物生産科学 植物生産科学 農林共生科学	修士 (農学)
		農林環境科学コース 植物機能科学 動物機能科学 森林環境科学 生態環境科学	
		地域農業工学コース 農村環境・基盤整備学 農村環境保全・防災学 バイオシステム工学	
		生物資源科学コース 生物機能開発学 食品機能科学 発酵・生命科学 健康栄養科学	

鹿児島大学大学院連合農学研究科(博士課程)

鹿児島大学大学院連合農学研究科は、日本の食料生産基地である九州・沖縄において、農水産業のさらなる発展を目指し、環境と調和した安定的な食料生産および技術革新を担う指導者の養成を目的に、琉球大学、佐賀大学および鹿児島大学が連合し、多彩な教員組織を構築して、研究施設および設備も連合しながら教育研究体制を作り、社会・世界に貢献する博士を輩出する博士課程大学院です。温帯から熱帯資源の生産・利用を中心に地域・国際農水産学、環境農水産学および先端生命科学に関する高度な専門的能力と豊かな学識をそなえた研究者を養成し、科学の進歩と農水産業および地域の発展に寄与することを目的とします。また、社会人ならびに外国人留学生、特に中国及び東南アジア等の諸国から農水産学系の留学生希望者を積極的に受け入れ、東アジア及び東南アジアにおける農学の教育研究の中核となることを目的とします。

専 攻	入学定員	連 合 講 座	学 位
生物生産科学	7人	熱帯資源・植物生産科学 動物資源生産科学 地域・国際資源経済学	博士 (農学)
応用生命科学	8人	生物機能化学 食品機能科学 先端応用生命科学	
農水圏 資源環境科学	8人	生物環境保全科学 地域資源環境工学 水産資源環境科学	

亜熱帯フィールド科学教育研究センター

亜熱帯フィールド科学教育研究センターは、農学部学生の実践的な教育・研究の場として、大学構内に「千原フィールド」、沖縄島北部に「与那フィールド」を有しています。これらのフィールドでは、作物栽培管理、森林管理、家畜生産管理に関する基礎教育が行われています。加えて、センター教員は、亜熱帯地域農学科農林共生科学分野を構成しており、農林畜産業の持続的発展を目指して、植物・森林、家畜と人との関係について多様な教育・研究に取り組んでいます。



肉用山羊の放牧(千原フィールド)

ビニールハウスにおける栽培実習
(千原フィールド)亜熱帯作物カンショの収穫実習
(千原フィールド)世界自然遺産の森のモニタリング
(与那フィールド)

上原研究圏での実習風景



超高温好気性発酵堆肥化施設(千原フィールド)

琉球大学博物館(風樹館)

琉球大学博物館(風樹館)には、学内の研究者が教育や研究活動の一環として、主に琉球列島で収集した約17万点あまりの標本や資料が収蔵されています。一階にある常設展示室では、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナなどの希少生物の標本をはじめ、首里城関連の考古資料、伝統工芸資料、農具などの民俗資料が展示されています。また、当館には自然学習の場として「学校ビオトープ見本園」が併設されており、様々な動植物が観察できます。

琉球大学では「地域へ開かれた大学」という方針のもとに、大学が生産する様々な学術情報を学外へも広く提供しています。当博物館では、広く学外の方々にも収蔵資料を活用していただけるよう、ホームページ上に標本データベースを開設し、標本情報などの発信を行っています。また、地域への貢献活動として、小学校などへの出前授業や教職員の研修会なども実施しています。

詳しくはホームページで <https://fujukan.skr.u-ryukyu.ac.jp/>



風樹館(外観)



学校ビオトープ見本園(屋外展示場)



自然系展示室



文化系展示室

国際交流活動

農学部が取り組んでいる国際交流活動の内、国際農学プログラムと国際ワークショップの二つを紹介します。

国際農学プログラム

農学研究科ではアジア・環太平洋地域諸国との21世紀型の教育研究コンソーシアム構築を目指して、平成23年度から『国際農学プログラム』を実施してきました。中期目標では、「学生の国際流動性を高める仕組みの構築を通じて、世界の様々な地域を舞台に交流と参画を通して、豊かな社会づくりを目指すグローバル人材を育成する」の一つです。

本プログラムはインドネシア・ボゴール農科大学、スリランカ・ルフナ大学、タイ・コンケン大学の3大学との連携協定、夏季コース(琉球大学教員及び学生の派遣)及び冬季コース(協定校からの教員及び学生の招聘)の組合せによる相互乗り入れプログラム、平成27年度からは協定校間の連携強化を目的に国際ワークショップを実施してきました。

令和元年8月、9月には、琉球大学農学部から12名の院生をインドネシア・ボゴール農科大学またはタイ・コンケン大学で国際農学プログラム(IAP)のサマーコースに派遣しました。派遣学生らは、協定拠点大学の国際サマーコースに参加し、また拠点大学の教員の指導の下でフィールドワーク、インターンシップ、現地の学生との交流会に参加し、多くのことを学びました。



2019年 国際サマーコース



2019年 国際ワークショップ

沖縄での国際農学プログラム開催(冬季コース)

令和2年1月24日から27日までは、琉球大学で国際農学プログラムの冬季コースが開催され、5つの連携大学であるインドネシア・ボゴール農科大学、タイ・コンケン大学、スリランカ・ルフナ大学、バングラデシュ・シェレーバングラ農業大学、ミャンマー・イエジン獣医学院から教授7人と学生4人が参加しました。

1月24日に、午前のセッションで国際ワークショップ、午後にIAP参加学生による海外研究活動の報告会、ユースフォーラム、オンラインディスカッションが開催され、「熱帯農業と気候変動への適応」と題された国際ワークショップでは、7つのプレゼンテーションがありました。

1月26日から27日は沖縄県北部で1泊2日のエクスカーションが行われ、今帰仁村今泊に滞在し、海外の参加者とIAP学生が沖縄の食文化、農村の景観、沖縄の農業など、本格的な沖縄体験となりました。



2019年 国際ウィンターコース

農学部および農学研究科教員の主な研究内容紹介

亜熱帯地域農学科

各研究室のURLを、<https://www.agr.u-ryukyu.ac.jp/labos/> の後ろに続けて入力して下さい。

教員名	研究室名	研究内容紹介	研究室のURL
教授 内藤 重之	農業経済学研究室	農業経済学、農業市場学、食料・農産物の地産地消と食育に関する研究、農業・農村の6次産業化、都市農村交流に関する研究。	agecon
教授 大田 伊久雄	森林政策学研究室	森林・林業・木材産業に関する社会科学的研究(法制度・経済政策・歴史・自然保護・山村問題)。国有林および森林資源の公的管理問題。欧米をはじめとする諸外国における森林管理の比較分析。森林認証制度の現状と課題。	rinsei
准教授 木島 真志	森林資源管理・経済学研究室	森林経済学・自然資源経済学、数理モデル・シミュレーションモデルを用いた経済・政策分析、森林管理最適化。	konoshim
教授 嬉野 健次	花卉園芸学研究室	園芸学・造園学、育種学。花卉園芸作物の遠縁交雑育種に関する研究、斑入り植物の発見に関する研究。	ureshinok
准教授 Md. Mizanur Rahim Khan	野菜園芸学研究室	園芸学、育種学。野菜の育種に関する研究、ナスの雄性不稔に関する研究。	Khan
准教授 仲村 一郎	作物開発学研究室	育種学、作物学・雑草学。稲の耐塩性に関する研究、ハイブリッドライスの育成および物質生産に関する研究。	nakamura
教授 佐野 文子	家畜衛生学研究室	病原真菌学。イルカの日見と高度病原性真菌症の診断、治療、疫学および動物の真菌症。	eisei
教授 杉村 泰彦	畜産資源経済学研究室	畜産資源経済学、農業市場学をベースに、農畜産物流通、市場制度、食品ロス・食品廃棄物問題など、循環畜産の持続に関する社会科学的な研究に取り組んでいる。	agecon
准教授 伊村 嘉美	家畜栄養学研究室	沖縄県で発生する未利用資源である泡盛粕やトウフ粕等の養豚用飼料としての有効利用に関する研究。	yimura
助教 江藤 毅	家畜管理学研究室	家畜管理学、動物行動学、動物生理生態学。亜熱帯地域における動物の適切な管理手法の確立に向けて、産業動物、在来家畜、野生動物に関する研究に取り組んでいる。	teto
教授 Md. Amzad Hossain	作物栽培環境学研究室	Field crop production, Plant Ecology and Physiology, Weed science and herbal plant science, Soil, fertilizer and herbicide management, 環境保全型農業、ウコン品種開発・商品開発に関する研究。	amzad
教授 赤嶺 光	植物共生学研究室	芝生の生長・生態的特性の研究、道路雑草の防除に関する研究、緑地が人の心身の健康に与える影響、園芸福祉に関する研究。	akamineh
准教授 陳 碧霞	里山環境学研究室	森林ツーリズム・レクリエーション学、文化的景観、風水林、ホームガーデン、アグロフォレストリーに関する研究。	fukugitree
助教 高嶋 敦史	森林共生学研究室	沖縄島北部・やんばる地域の森林管理に関する研究を中心に、屋久島・ヤクスギ林の長期林分動態解明などにも取り組んでいる。	takashima
助教 波平 知之	動物共生学研究室	暖地型牧草の周年栽培を基盤とする家畜生産(肉用牛・肉用ヤギ・肉用豚)に関する実用研究。	namihi

亜熱帯農林環境科学科

各研究室のURLを、<https://www.agr.u-ryukyu.ac.jp/labos/> の後ろに続けて入力して下さい。

教員名	研究室名	研究内容紹介	研究室のURL
教授 川満 芳信	作物学研究室	作物の光合成とバイオマス生産、バイオエネルギー、沖縄型植物工場に関する研究を行っている。	kawamitu
教授 田場 聰	植物病理学研究室	未知病害の原因解明や拮抗微生物および未利用植物を活用した環境配慮型防除技術の開発を行っており、特に熱帯作物類の病害や線虫病(土壤線虫病、マツ材線虫病)を研究対象としている。	phytopathology
准教授 関根 健太郎	植物病理学研究室	熱帯作物の植物ウイルス病害の防除を目指した診断・防除技術の開発を目指し、植物とウイルス間の相互作用の基礎的知見を分子生物学的手法を駆使して探求している。	phytopathology
准教授 諏訪 竜一	作物学研究室	植物生産能のソース・シンク関係、環境ストレスに対する植物応答および沖縄県在来の作物栽培の研究を行っている。	suwa
教授 建本 秀樹	家畜繁殖学研究室	沖縄在来豚アゲー及びウシの生殖細胞における凍結保存の研究。また、体外でのブタやウシの正常受精卵作出に關わる卵胞の体外成熟ならびに体外受精に関する研究を行っている。	anim_reprod
准教授 金野 俊洋	動物機能形態学研究室	組織学、発生生物学に関する研究、特に胚着床・胎盤形成における子宮と胚の相互作用についての研究を行なっている。	konno
准教授 佐々木 慎二	家畜ゲノム科学研究室	黒毛和種で発生する胎仔や子牛死亡など遺伝的不良形質の原因をゲノム科学の手法を用いて特定するとともに、これらの発症の生理的メカニズムを解明し、農家が安心して黒毛和種を生産できるよう研究を行っている。	kuroge
助教 長嶺 樹	家畜生理学研究室	未利用資源を活用した自家製育成用飼料を用いた子ヤギの育成と成長特性の解明に関する研究、採食量の調節メカニズムの解明に関する研究を行っている。	yagi-ken
教授 谷口 真吾	造林学研究室	亜熱帯樹木の開花結果、種子生産における繁殖資源の配分などの繁殖生理や種子散布などの繁殖生態に関する基礎研究、および亜熱帯林の天然更新や針広混交林による生物多様性の高い森林再生に関する応用研究を行っている。	zourin
准教授 松本 一穂	造林学研究室	樹木の生理生態や森林生態系の物質やエネルギーの循環に関する研究を行っている。	zourin2
准教授 Bam H.N. Razafindrabe	流域森林保全学研究室	森林を含む流域内の気象、土砂災害等の自然的条件ばかりでなく、経済、文化等の社会的条件による複合的な食料、水、健康等への危機に対する総合リスクマネージメントに関する研究を行っている。	bam
教授 鬼頭 誠	耕地利用学研究室	持続的で環境保全型な食料生産技術の確立に関する研究について植物生理・生態学をベースに行っている。	kitoum
助教 亀山 統一	森林保護学研究室	琉球列島におけるマンゴロープや森林植物・綠化造園木の病害や内生菌類に関する研究を行っている。	kameyama
准教授 金城 和俊	土壤学研究室	土壤有機物の性質や機能に関する研究および農耕地の土壤改良、森林地の炭素循環、土壤生成の研究も行っている。	soil
教授 辻 瑞樹	昆虫学研究室	社会性昆虫類の進化、行動、生態に関する基礎研究、および稀少昆虫、外来種を題材とした保全生態学的研究を行っている。	konken
准教授 鶴井 香織	昆虫学研究室	昆虫及び魚類の捕食回避や性選択に関連する内容を中心に、行動生態学的研究を行っている。また、外来魚や検疫害虫を対象とした保全生態学・応用昆虫学的研究を行っている。	konken

地域農業工学科

各研究室のURLを、<https://www.agr.u-ryukyu.ac.jp/labos/> の後ろに続けて入力して下さい。

教員名	研究室名	研究内容紹介	研究室のURL
教授 平良 英三	農産施設工学研究室	近赤外分光法(NIR)によるサトウキビの品質評価やマンゴー栽培支援のシステム開発など光を利用した農産物の品質情報収集とその解析・評価技術の研究・開発を行っている。	tairae
教授 鹿内 健志	農業機械学・農業情報工学研究室	ICT(情報通信技術)を活用し、沖縄や亜熱帯地域の農業生産情報を収集・解析することで、農家の暗黙知(知恵・技能)を形式知(数値・文字化)とし栽培管理などの農作業の最適化を目指す研究を行っている。	shikanait
准教授 光岡 宗司	農産施設工学研究室	数理・工学的アプローチを通じた亜熱帯における農業生産システムの効率化・高度化、作物・農産物と機械との相互作用に基づく最適設計、データ駆動型アプローチによる農業生産システムにおける異常検知および安全性の向上に関する研究を行っている。	m-mitsuoka
教授 酒井 一人	利水工学研究室	環境水文学、農業流域における物質循環の解析。	risui
准教授 濑戸内 秀規	造構学研究室	基礎地盤を対象とした地盤材料の力学シミュレーション技術の開発。	setouchih
准教授 仲村渠 将	利水工学研究室	シルト・粘土粒子の輸送現象に関する実験水理学的解析。	risui
教授 中村 真也	土地環境保全学研究室	農村地域の環境保全、土砂災害の防止・軽減に関する研究を行っている。特に、土の強度測定やリアルタイム観測に基づく斜面の不安定化機構の解明、施設栽培改善を通じた地下ダム水利活用の健全性の維持・向上に取り組んでいる。	lec
教授 山岡 賢	農村環境資源研究室	農村地域での資源循環システムの構築に関する研究を行っている。資源循環システム全体を俯瞰した計画論や資源循環システムを構成する個々のバイオマス変換・利用技術の開発などに取り組んでいる。	rere
准教授 木村 匠	地域防災学研究室	農村地域の環境保全、土砂災害の防止・軽減に関する研究を行っている。特に、斜面や農地における土・岩の物性・透水性および強度の特性解明に取り組んでいる。	lec
助教 安元 純	島嶼水環境学研究室	陸と海が地下水を介して接している沿岸域の水環境の保全と農村環境保全を目標に、琉球石灰岩分布地域における地下水水流動や物質輸送特性について研究を実施している。	nochi

亜熱帯生物資源科学科

各研究室のURLを、<https://www.agr.u-ryukyu.ac.jp/labos/> の後ろに続けて入力して下さい。

教員名	研究室名	研究内容紹介	研究室のURL
教授 金子 哲	糖鎖科学研究室	植物や海藻の細胞壁多糖を食品素材、化粧品素材、バイオ燃料等の様々な用途へ利用するための研究を行っている。特に用途開発の鍵となる糖か水分解酵素の探索や酵素の構造と機能について研究を行っている。	tousa
教授 高畠 幸司	林産科学研究室	木質科学、応用きのこ学。沖縄地方の地域振興に寄与すること目的に特用林産物、特に亜熱帯性食用菌使いのこ生の構造・生態、栽培に関する研究を行っている。	ktakaba
教授 小西 照子	多糖類機能化学研究室	陸上植物や海藻から細胞壁多糖を抽出し、その構造を決定するとともに多糖類の生合成の仕組みや生物学的機能を明らかにする。さらに、多糖を産業利用する応用研究も行っている。	polysaccharide
准教授 福田 雅一	遺伝子工学研究室	ギンネム・オジギソウの持つミモシンと呼ばれる物質の合成や分解に関わる酵素・遺伝子、およびその物質が細胞・個体に与える影響等について調べます。	fukutam
准教授 石井 貴広	生物活性物質学研究室	天然物有機化学、創薬・農薬化学。亜熱帯沖縄由来の未・低利用な生物資源より、新たな医薬品や農薬等の開発に結びつく有用な天然生物活性物質(低分子有機化合物)の取得を目指している。	ishiit
教授 高良 健作	食品化学研究室	熱帯・亜熱帯の野菜や果物の食品機能性成分の評価や定量分析、活性物質の分離、構造解析、その他サトウキビの食品機能や安全性についても広く研究している。	foodchem
准教授 稲福 征志	食資源利用学研究室	ヒトの健康増進に資する亜熱帯生物資源の探索とその寄与成分と発現機序の解明を行い、それらを高度利活用化した産業応用を目指している。	food_func
准教授 高橋 誠	食品加工学研究室	亜熱帯生物資源の食品加工を通じて、物理化学的な特性や生体調節機能の変化を探り、実用的な食品利用加工方法の開発を行っている。	food_process
教授 外山 博英	発酵微生物学研究室	酢酸菌の生理学的特徴と代謝変換機構・耐熱性獲得機構の解析、黒麹菌と泡盛酵母の分子生物学的解析、ならびにピロロキノリンキノン(PQQ)の生合成機構の解析。	PQQ-Quinoprotein
教授 平良 東紀	応用微生物学研究室	応用微生物学および蛋白質工学。泡盛醸造に係わる微生物及びその酵素の研究、乳酸菌及びその増殖因子の研究、植物の生体防御蛋白質の構造と機能に関する研究を行っている。	oubi
准教授 橘 信二郎	微生物利用学研究室	沖縄の伝統発酵食品『とうふよう』製造に用いられる紅麹菌がつくる生理活性物質や酵素に関する研究、ならびにピロロキノリンキノン(PQQ)の生理機能解明に関する研究を行っている。	Biryo
准教授 水谷 治	発酵微生物学研究室	泡盛・焼酎醸造に用いられている黒麹菌の分子生物学研究に必要な技術基盤の開発と、それらを用いた応用育種を通して、泡盛・焼酎業界の発展や黒麹菌の有用活用法の創生を目指している。	PQQ-Quinoprotein
助教 上地 敬子	応用微生物学研究室	泡盛醸造に係わる微生物とその酵素の研究、抗カビ活性を示す酵素の探索・機能解析に取り組んでおり、並びに酵素の立体構造と機能の相関性の解明を目指している。	oubi
教授 和田 浩二	食品化学研究室	沖縄特産物を中心として亜熱帯食素材のフレーバー成分および機能性成分の分析や評価、またそれらの成分と加工法との相関や新たな加工利用について研究している。	foodchem
准教授 井口 直子	給食管理・食育研究室	実践的な栄養士業務のあり方を示す「給食管理」と学校給食を活用した郷土料理・沖縄の食文化の継承、また幼児期から思春期までの発達段階に応じた食育について研究を行っている。	iguchina
准教授 大西 竜子	栄養学研究室	食物中難消化性成分の消化管に対する生理的作用と、腸内細菌の代謝物を介したヒトの生活習慣病の予防・改善の可能性について、主にモデル動物を用いて研究を行っている。	ohnishi
准教授 宮城 一菜	食品・栄養指導研究室	島ヤサイ等の沖縄産農作物を中心にメニュー開発を行い、それらの官能評価や機能性成分分析について研究を行っている。さらに、これらの食材を活用して食育に繋がるような栄養指導も実施している。	k_miyagi
准教授 ヨナタン・アシキン	食品化学研究室	熱帯・亜熱帯地域の食資源における美味しさに関する研究、特に香り成分における嗜好特性を加工・調理へ活用する研究を行っている。	foodchem

熱帯生物圏研究センター(農学研究科担当教員)

教員名	研究室名	研究内容紹介	研究室のURL
教授 屋 宏典	遺伝資源応用学研究室 (熱帯生物圏研究センター所属)	亜熱帯生物の持つ有用遺伝子や有用物質を利用することで環境保全やヒトの健康促進に関する研究、特に“脂質”に関わる生理活性や遺伝子に焦点をあてた研究を行っている。	https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp/
教授 梶田 忠	熱帯植物学研究室 (熱帯生物圏研究センター所属)	マンゴロープ植物やマメ科植物などの熱帯植物を対象に、系統・分類・進化・生態に関する基礎研究、および、保全生物学的研究を行っている。	http://nesseiken

職員 Staffs

1) 役職員 Managerial Staffs

学部長 Dean	和田浩二 Koji WADA
副学部長 Vice - Dean	中村真也 Shinya NAKAMURA 内藤重之 Shigeyuki NAITOH 酒井一人 Kazuhito SAKAI 小西照子 Teruko KONISHI
教育研究評議会評議員 Member of the Council of Education and Research	内藤重之 Shigeyuki NAITOH
亜熱帯フィールド科学教育研究センター長 Director of Subtropical Field Science Center	モハメド アムザド ホサイン Md. Amzad HOSSAIN

2) 教育職員(令和4年5月1日現在) Teaching Staffs (as of May 1, 2022)

学科 Department	分野 Study field	教授 Professor	准教授 Associate Professor	助教 Assistant Professor
亜熱帯地 域農 業 科 Subtropical Agro- Production Sciences	農林経済科学 Agricultural and Forest Economics	内藤重之 Shigeyuki NAITOH 大田伊久雄 Ikuo OTA	木島真志 Masashi KONOSHIMA	
	植物生産科学 Plant Production Science	嬉野健次 Kenji URESHINO	モハメド ミザヌル ラヒム カーン Md. Mizanur Rahim Khan 仲村一郎 Ichiro NAKAMURA	
	動物生産科学 Animal Production Science	佐野文子 Ayako SANO 杉村泰彦 Yasuhiro SUGIMURA	伊村嘉美 Yoshimi IMURA	江藤 毅 Takeshi ETO
	農林共生科学 Symbiotic Agricultural and Forest Science	モハメド アムザド ホサイン Md. Amzad HOSSAIN 赤嶺 光 Hikaru AKAMINE	陳碧霞 Bixia CHEN	高嶋敦史 Atsushi TAKASHIMA 波平知之 Tomoyuki NAMIHIRA
亜熱 帯農 林環 境科 Subtropical Agro- Environmental Sciences	植物機能科学 Plant Functions Science	川満芳信 Yoshinobu KAWAMITSU 田場 聰 Satoshi TABA	諏訪竜一 Ryuichi SUWA 関根健太郎 Kentaro SEKINE	
	動物機能科学 Animal Functions Science	建本秀樹 Hideki TATEMOTO	金野俊洋 Toshihiro KONNO 佐々木慎二 Shinji SASAKI	長嶺 樹 Itsuki NAGAMINE
	森林環境科学 Forest Science	谷口真吾 Shingo TANIGUCHI	バム ラザフィンラベ Bam Haja Nirina RAZAFINDRABE 松本一穂 Kazuho MATSUMOTO	亀山統一 Norikazu KAMEYAMA
	生態環境科学 Ecology and Environmental Science	鬼頭 誠 辻 瑞樹 Makoto KITO Mizuki TSUJI	金城和俊 Kazutoshi KINJO 鶴井香織 Kaori TSURUI	
地域農 業工 程 科 Regional Agricultural Engineering	農村環境・基盤整備学 Agricultural Infrastructure Improvement and Rural Development Engineering	酒井一人 Kazuhito SAKAI	瀬戸内秀規 Hideki SETOUCHI 仲村渠将 Tamotsu NAKANDAKARI	
	農村環境保全・防災学 Rural Environmental Conservation and Disaster Prevention Engineering	中村真也 山岡 賢 Shinya NAKAMURA Masaru YAMAOKA	木村 匠 Sho KIMURA	安元 純 Jun YASUMOTO
	バイオシステム工学 Biosystems Engineering	平良英三 鹿内健志 Eizo TAIRA Takeshi SHIKANAI	光岡宗司 Muneshi MITSUOKA	
亜熱 帯生 物資 源科 Bioscience and Biotechnology	生物機能開発学 Biotechnology	金子 哲 高畠幸司 小西照子 Satoshi KANEKO Koji TAKABATAKE Teruko KONISHI	福田雅一 石井貴広 Masakazu FUKUTA Takahiro ISHII	
	食品機能科学 Food Science and Nutrition	高良健作 Kensaku TAKARA	稻福征志 高橋 誠 Masashi INAFUKU Makoto TAKAHASHI	
	発酵・生命科学 Fermentation and Life Science	外山博英 平良東紀 Hirohide TOYAMA Toki TAIRA	橘信二郎 水谷 治 Shinjiro TACHIBANA Osamu MIZUTANI	上地敬子 Keiko UECHI
	健康栄養科学 Health and Nutritional Science	和田浩二 Koji WADA	井口直子 ヨウタツアキ 大西竜子 宮城一菜 Naoko IGUTI Yonathan ASIKIN Ryuko OHNISHI Kazuna MIYAGI	

3) 亜熱帯フィールド科学教育研究センター職員 Subtropical Field Science Center Staffs

モハメド アムザド ホサイン, 赤嶺光, 陳碧霞, 高嶋敦史, 波平知之
Md. Amzad HOSSAIN, Hikaru AKAMINE, Bixia CHEN, Atsushi TAKASHIMA, Tomoyuki NAMIHIRA

4) 事務職員 Administrative Staffs

事務長 崎山英樹, 総務係長 中村範章, 学務係長 神谷隆彦, 附属施設係長 赤嶺雅哉
Chief, Administration Division: Hideki SAKIYAMA, General Affairs' Chief Noriaki NAKAMURA, Student Affairs' Chief: Takahiko KAMIYA, Facility Affairs' Chief: Masaya AKAMINE

職員数 Staffs

令和4年5月1日現在 (as of May 1, 2022)

区分 Division	教授 Professor	准教授 Associate Professor	助教 Assistant Professor	計 Total	事務職員 Administrative Staff	技術職員 Technical Staff	計 Total	合計 Total
学部 Faculty	23	26	5	54	9	2	11	65
亜熱帯フィールド 科学教育研究センター Subtropical Field Science Center	2	1	2	5	1	12	13	18
計 Total	25	27	7	59	10	14	24	83

土地・建物 Land and Building

令和4年5月1日現在 (as of May 1, 2022)

区分 Division	土地面積 (m ²) Land Area	建物延面積 (m ²) Building
農学部 Faculty of Agriculture	30,800	16,707
亜熱帯フィールド科学教育研究センター Subtropical Field Science Center		
千原フィールド Senbaru Field	259,260	4,232
与那フィールド Yona Field	8,917 (3,183,810)	1,679
計 Total	298,977 (3,183,810)	22,618

(注) 土地()内は借地で外数

*The numbers in the parenthesis indicate leased land.

学生の定員および現員

学部 Faculty

令和4年5月1日現在 (as of May 1, 2022)

学科 Department	入学定員 Annual Admission	1年次 1st Year	2年次 2nd Year	3年次 3rd Year	4年次 4th Year	合計 Total
亜熱帯地域農学科 Subtropical Agro-Production Sciences	35	35	40	35	38	148
亜熱帯農林環境科学科 Subtropical Agro-Environmental Sciences	35	37	38	34	50	159
地域農業工学科 Regional Agricultural Engineering	25	27	26	26	32	111
亜熱帯生物資源科学科 Bioscience and Biotechnology	45	48	47	48	55	198
計 Total	140	147	151	143	175	616

大学院(修士課程) Master's Course

令和4年5月1日現在 (as of May 1, 2022)

専攻 Major	入学定員 Annual Admission	1年次 1st Year	2年次 2nd Year	合計 Total
亜熱帯農学専攻 Subtropical Agriculture	35	34	41	75

大学院(博士課程) 鹿児島大学大学院連合農学研究科

Doctoral Course: The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University

令和4年5月1日現在 (as of May 1, 2022)

研究科 Doctoral Course	入学定員 Annual Admission	収容定員 Total Admission	1年次 1st Year	2年次 2nd Year	3年次 3rd Year	合計 Total
鹿児島大学大学院 連合農学研究科 The United Graduate School	23	69	27(4)	26(6)	52(16)	105(26)

()は本学の教員が指導する学生数で内数

The number in the parenthesis indicates students being directed by professors in the faculty.

令和4年度 入学志願者および入学状況

学 部 Faculty

学 科 Department	入 学 定 員 Capacity	志願者數 Applicants				受驗者數 Examinees				入学者數 Enrollments			
		男 M	女 F	計 Total	倍率 T/C	男 M	女 F	計 Total	倍率 T/C	男 M	女 F	計 Total	
亞熱帶地域農學科 Subtropical Agro-Production Sciences	35	61	35	96	2.7	43	23	66	1.9	25	10	35	
亞熱帶農林環境科學科 Subtropical Agro-Environmental Sciences	35	88	29	117	3.3	64	21	85	2.4	28	8	36	
地域農業工学科 Regional Agricultural Engineering	25	58	13	71	2.8	47	10	57	2.3	22	5	27	
亞熱帶生物資源科學科 Bioscience and Biotechnology	45	63	80	143	3.2	43	62	105	2.3	18	30	48	
計 Total		140	270	157	427	3.0	197	116	313	2.2	93	53	146

T/C:Total/capacity

大学院(修士課程) Master's Course

専攻 Major	入学定員 Capacity	志願者数 Applicants				受験者数 Examinees				入学者数 Enrollments		
		男 M	女 F	計 Total	倍率 T/C	男 M	女 F	計 Total	倍率 T/C	男 M	女 F	計 Total
亞熱帶農學専攻 Subtropical Agriculture	35	23	25	48	1.4	19	24	43	1.2	15	19	34
計 Total	35	23	25	48	1.4	19	24	43	1.2	15	19	34

T/C:Total/capacity

卒業生の動向

学 部 Faculty

卒業者数(人)・性別・学年別・学年別										
卒業年度 Academic Year	平成24年度卒 2012	平成25年度卒 2013	平成26年度卒 2014	平成27年度卒 2015	平成28年度卒 2016	平成29年度卒 2017	平成30年度卒 2018	令和元年度卒 2019	令和2年度卒 2020	令和3年度卒 2021
卒業者数 Number of Graduates	127	128	144	131	124	115	128	117	134	141
教員 Teacher	0	0	1	2	2	0	2	1	0	0
官公庁 Central and Local Gov.	16	17	18	21	21	20	23	18	23	20
会社 Private Sector	44	55	65	45	56	57	58	50	54	59
自営 Self-owned business	1	0	0	0	0	0	0	2	1	1
進学 Graduate Scholl	30	27	35	37	30	24	29	24	40	36
その他 Others	36	29	25	26	15	14	16	22	16	25

大学院(修士課程) Master's Course

修了年度 Academic Year		平成24年度卒 2012	平成25年度卒 2013	平成26年度卒 2014	平成27年度卒 2015	平成28年度卒 2016	平成29年度卒 2017	平成30年度卒 2018	令和元年度卒 2019	令和2年度卒 2020	令和3年度卒 2021
専攻修了者数 Number of students completing their programs		36	26	26	28	31	28	26	20	24	19
教員 Teacher		1	0	2	0	1	1	1	0	0	1
官公庁 Central and Local Gov.		12	5	8	8	7	1	6	1	3	0
会社 Private Sector		8	10	8	14	16	18	15	11	15	13
自営 Self-owned business		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進学 Graduate School		5	4	7	3	3	6	2	6	2	3
その他 Others		10	7	1	3	4	2	2	2	4	2

業生・修了生の進路

は就職先・進学先(平成24-令和3年度卒業生・修了生のデータです。)

4-令和3年度卒業生 主な就職先・進学先

【就職先】 熊本農業高校、沖縄県庁、茨城県庁、長崎県庁(畜産)、那覇市役所、与論町役場、大阪府警察、熊本県庁、静岡県庁、豊見城市役所、自衛隊、東村役場、日本赤十字社沖縄県本部、馬路村農協、JAおきなわ、農家(自営業)、全国酪農業協同組合連合会、農事組合法人吉浦牧場、(株)南九州沖縄クボタ、沖縄県労働金庫、沖縄アーティビ放送(株)、沖縄ヤマト運輸(株)、(株)沖縄教育出版、(株)サウス・ウインド・システム、(株)サウスプロダクト、(株)サンエー、(株)サンプラザ、日本システム技術(株)、(株)アコディアゴルフ、(株)徳島、(株)フェース、(株)メイクマン、住友林業緑化(株)、ナガイグリルーズ、山口情報処理サービスセンター、(有)知多エッグ、(株)日興システムソリューションズ、(株)リワボウストア、DIRインフォメーションシステムズ(株)、琉球銀行、井伊農機(株)、糸満光農園、エコシステムズ(株)、(株)EM研究機構、(株)カミチク、さるな保育園、美ら島財團、日本トイザラス(株)、屋比久珠算塾、(株)ワタミ、(株)アソウ・ヒューマニセンター、(株)ユニバーサル園芸社、(株)臨海、JA宮崎経済連、一般社団法人農山漁村文化協会、伊藤忠飼料(株)、エームサービス(株)、沖縄ゼックス(株)、(株)松永牧場、(株)ユニマット・プレシャス、茶農家、東京多摩青果(株)、日本ム・惣菜(株)、(有)瑞穂農場、吳農業協同組合、沖縄市役所、名護市役所、オイシックス(株)、伊賀北部農業協同組合、(株)ぐるなび、(株)さかうえ、(株)農業生産法人ファインフルーツおおぎみ、中部農林高校、(株)東洋グリーン、(株)ミサワホーム静岡、沖縄農業研究センター、M&B(株)、(株)ゼロファーム、紫華産業(株)、紫畜産、EC SUPPORT、エムアンドビー(株)、沖縄飼料(株)、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)ネットワーク、(株)ラグジュアリー、(株)共和化工、埼玉県信用農業協同組合連合会、ドッグストアモリ、日清丸紅飼料(株)、フジ産業(株)、(株)沖縄タイムス社、(株)H2、内閣府沖縄総合事務局、(株)ビエトロ、(株)ブリック、沖縄労働局、ウインズクリケット系数、沖縄県立北部農林高等学校、JA兵庫西、やエマ久野(株)、くら寿司、大坂屋、小豆島ヘルシーランド(株)、金秀興産(株)、生活協同組合コープみらい、岐阜県立、茨城県教育府、林野庁、沖縄県立宮古総合実業高校、沖縄県立八重山農林高校、全国農業協同組合連合会、(株)テラファーム、(株)リコウ、メイカルアーサービス(株)、(株)ITAPカバンナ-、ELJY-ラーニング-ショーン(株)、松屋フーズホールディングス、(株)ワールド・ワン、明治飼料(株)、(株)群馬銀行、南西医療器(株)、東京シティ青果(株)、琉京甘味SANSSOUCI、農林水産省、北海道厅、(株)那覇ミニト、山田ビル社、(株)粉研パウチックス、トランス・コスマス(株)、(株)島袋、沖縄ヤクルト(株)、グリーンライフ産業(株)、植物防疫所、西東京市役所、農業協同組合、兵庫西農業協同組合、(株)沖縄電力、フジシングループ本社(株)、アクシオハリックス(株)、セザックス(株)、(株)GOSSO、(株)ゼンケイ、(株)パブリックキッチン、(株)ハロース、(株)ビーンズラボ、(株)ホクガン、(株)ユーベック、(株)ロピア、(株)宿舎、(株)大田花き、(株)那覇ミート、(株)夢感動ファーム、秋田県立大学、創和ビジネスマシンズ、(株)ブックオフ沖縄

【就職先】久米島高校、沖縄県庁、農林水産省植物防疫所、千葉県庁、宮崎県庁、東京消防庁、沖縄県警察、富山県警察、東広島市役所、八重瀬町役場、北中城村役場、宜野座小学校、林野庁、JAおきなわ、農事組合法人吉浦牧場、沖縄北部森林組合、(株)光貴、(株)リウボウストア、(株)ササオカ、(株)りゅうせき、ストラパック(株)、チムニー(株)、トランスクスモスマー、アル、エム沖縄(株)、(株)サンエー、大分銀行、(株)中九州クボタ、(株)藤橋商店、沖縄製粉(株)、沖縄ヤクルト(株)、三伸機材(株)、全保連(株)、地域科学研究所、ヤンマー農機販売(株)、(株)ヤマダ、PSMAGA(株)ダイナム、コザ住宅商事、照屋勝武三線店、日本郵便(株)、(株)エスキスプラスチック、(株)サザビーリング、アイピーカンパニー、(株)ホクク、平田觀光農園、宮上病院、琉球セメント(株)、森林総合研究所、小橋川陶芸店、やんばる学びの森、那霸青果物卸商業組合、日伸産業(株)、大阪府立農芸高等学校、神奈川県農業共済組合、国立大学法人琉球大学、(株)東京ドームスポーツ、(株)テルミック、(株)なかやま牧場、大学生協九州事業連合、山陽電子工業(株)、(株)那覇ミート、いい林業(株)、(株)あいあいファーム、MXモバイリング、リード進学塾、金秀バイオ(株)、(株)Parity、サ・テラスホテルズ(株)、札幌テレビ放送、全研本社(株)、ビーンズラボ、環境省、北海道庁、日本食研(株)、国際航業(株)、山崎製パン(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)オフィシステムプロダクト、(株)オイシス、(株)興農園、(株)パライズプラン、(株)エステム、(有)グリーンフィールド、沖縄綜合警備保障(株)、アイオン(株)、シーアンドエス(株)、静岡県森林組合おがわ、名護市役所、南風原町役場、サントリベパッジサービス(株)、(株)VSN、(株)林牧場、(株)琉球銀行、ゼンショーホールディングス、(株)エイティック、アウルの森、沖縄保護動物園、(株)ゼン・トレーディング、ファロスファーム(株)、シートルコンサルティング、Tokyoフレッシュ、(株)米須釣具、(株)FUBIC、エヌエス環境(株)、共和化工(株)、九州管区警察局、沖縄出光(株)、(株)AHB、(株)ヒラタ、(株)ホンダファイナンス、(株)日本アクセス、国立研究開発法人 農業食品産業技術総合研究機構、三浦工業(株)、糸島農業協同組合、大和ラントック(株)

学獣医遺伝学研究科、九州大学大学院、京都大学農学研究科、岐阜大学自然科学技术研究科、筑波大学生命地球科学研究群 山岳科学学位プログラム

【進字元】 球城大学震字研究科、信州大学理工字研究科、三重大学生物資源字研究科、宇都宮大学大学院地域創生学科研究科

【就職先】 今浦町役場、沖縄総合通信局、沖縄県公署、沖縄市役所、東京地税課員、JAおさなわ、愛媛ひだしま農業協同組合、日本万孔乳業(株)、(株)EMI研成機械、(株)サソノロフト、FiveStar、エッカ石油(株)、オキコ(株)、沖縄ペビシバリッジ、オリンピアル(株)、(株)光貴、(株)ぐじへん、(株)ダイコウアイスラブ、(株)ハイディスクス、南西医療機器、ヒューマンアカデミー、エイシナル・エージェンシー、(株)サンエー、NECソフト沖縄(株)、金秀バイオ(株)、タニザワフーズ(株)、GAコンサルタント、イオン琉球(株)、沖縄銀行、沖縄コカ・コーラボトリング(株)、沖縄通信ネットワーク(株)、沖縄製陶乳業(株)、(株)ホクガン、忠孝酒造(株)、動物病院22時(株)、扶桑業品工業(株)、りゅうせきネットワーク会議、石川酒造場、(株)セントラルフルーツ、(株)葉っぱやファーム、松永牧場、メイプル牧場、(株)レジンド、アピケーションズ、沖縄製粉(株)、沖縄ボトラーズ(株)、オハヨー乳業(株)、金秀商事(株)、(株)セントラルカンパニー、クミアイ化学工業(株)、シティバンク銀行(株)、沖縄ハム総合食品(株)、藤田觀光(株)、(株)プロベリティ、サンハウス食品(株)、(株)国建システム、(株)御菴子御殿、(株)ゼンリンインターマップ、沖縄国税事務所、環境科学センター、損保ジャパン日本興亜、沖縄東邦(株)、(株)那覇ミート、沖縄森永乳業、(株)沖縄環境保全研究所、(株)ビーンズラボ、(株)富士通エフサス、(株)ユニマットプレシャス、トーホーグループ、ポンピドビュール(株)、(有)グリーンフィールド、出入国在留管理人事院沖縄事務所、九州厚生局、那覇市役所、江東区役所、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、(株)あつまる、(株)北岸、WDB(株)エウカラ社、ダグラスース(株)、コクリサイトクワロジーズ(株)、医療法人うえむら病院(株)すかいらーくホールディングス、鷹正宗(株)、(株)紀伊國屋、福岡検疫所、沖縄総合通信事務所、セルメディカ(株)、(株)オカノ、沖縄フォーサイト(株)、沖縄日立ネットワークシステムズ、大同火災海上保険(株)、沖電開発(株)、(株)LEOCO、ジエイコスメティックス(株)、ピービー・エム・エル、(株)ライフバーズ、(株)TATSUMI、クニヒロ(株)、マルキヨ(株)、ダイレックス、宜野湾市役所、国立大学法人琉球大学、アドバンティック(株)、キューイーエル(株)、フォーモストブルースリー(株)、一般社団法人子育て支援隊くるる、(株)UHA味覚糖(株)WAKUWAKU、(株)ココワイドMD、(株)りゅうせき、(株)塩ぬけ、(株)荒井商店、山崎製パン(株)、寿がきや食品(株)、(株)クリニコ

【進先】琉球大学農学研究科、名古屋大学医学系研究科、九州大学医学研究科、九州大学生物資源環境科学府、東京海洋大学海洋生命科学研究所、鳴門教育大学教育学研究科、東京大学新領域創成科学研究科、東京大学農学生命科学研究所、広島大学生物圈科学研究所、北海道大学農学研究科、東北大学生命科学研究所、九州大学微生物遺伝子資源学研究室、琉球大学大学院理工学研究科、北海道大学大学院環境科学府、鹿児島大学農林水産学研究科

【健康栄養科学コースにおいて想定される就職先・進学先】

病院・福祉施設・保育園・学校給食施設・行政機関(市町村役場)・食品会社・大学院進学など

1令和3年度修了生 主な就職先・進学先

【就職先】 沖縄県庁、農林水産省、動物検疫所、鹿児島県庁、石垣市役所、総社市役所、伊勢崎市役所、南足柄市役所、上峰町役場、環境省、君津市役所、植物防疫所、長崎県庁、独立行政法人森林総合研究所、沖縄県工業技術センター、WDBエウレカ(株)、イカリ消毒(株)、沖縄銀行(株)、ぐけんぱん(株)ゼンショウホールディングス、合同酒精(株)、ニコニコのり(株)、オリオーピール(株)、コーポおきなわ、琉球製糖(株)、ダイコー沖縄、ニユートンフライアンシャルゴーサルティング(株)、フジ環境サービス(株)ハイオミメテイクパンバーズ、JAおきなわ、沖縄明治乳業(株)、キューピー(株)、コクワ流通サービスカンパニー、光文堂コミュニケーションズ(株)、独立行政法人国際協力機構、梶原工業(株)、金秀商事(株)、アース沖縄、クリマティック(株)、全国酪農業協同組合連合会、日本赤十字社沖縄県支部、ベジフルファーム、丸大食品(株)、三井食品(株)、(有)らんの里沖縄、米久(株)、(株)ワールドインティック、那覇市立病院、(有)エハグリーン、生活協同組合埼玉、D&I情報システム(株)、(株)ガイアート、ゆがふ製糖(株)、空知農業改良普及センター、恩納村役場、海外貨物検査(株)、(有)カドーレ、(株)国建システム、琉球海運(株)、田幸技建コンサルタンツ、(株)ホーリー設計、沖縄県農業研究センター、(株)中日新聞社、北部農林高等学校、琉球大学研究基盤センター、豊見城市役所、(株)満井農園、うれし野アグリ、(株)エニクス、西日本高速道路総合サービス沖縄(株)、(株)ゆうさせ、ヤンマー(株)、(株)サンエー、沖縄県信用保証協会、(株)ダイナコム、金秀バイオ、創和ビジネスシステムズ(株)、プロトロリューション、(有)グリーンマスクス清水 KENKO LEAF合同会社、Citi group、公益財團法人中国四国国際大学、ウェインズクリニック系、(株)オリエンタルコンサルタント、アイオン(株)、シーアンドエス(株)、(株)富士通アドバンストエンジニアリング、(株)スクールパートナーズ、(株)アドバンチック、(株)武蔵野、沖縄県警察、国立大学法人琉球大学、(株)PFI、フジクリーン(株)、(株)タウンズ、(株)アギズ、デリカフーズ(株)、(株)沖縄富士通システムエンジニアリング、プリマム、ホクト(株)、林野庁、(株)日本農林公社、富士ソフト(株)、沖縄ガス(株)、(株)トラストロン、(株)INTTデータ信越、フォーラムエイト、NTTロジスコ、神戸ARTレイディスクリック、加須畜産、加藤建設、(株)セルメディア、(株)スドージャム、(株)宮平乳業、沖縄県立中部農林高校、エッカ石油(株)、医療法人がじゅまるの会 ウェインズクリニック系、医療法人社団神谷レディスクリニック、(株)三協、(株)technopro R&D、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)ジーケイフーズ、(株)マブリイ、(株)メイクマン、(株)丸紅、恵愛生殖医療医院、建築設計事務所アトリエ門口

【進学先】鹿児島大学大学院連合農学研究科、京都大学化学研究所、滋賀県立大学環境科学研究科、沖縄科学技術大学院大学